

2023 ズバリ! 的中



日本史

九州大学

10世紀に大宰府政庁を焼き打ちした人物として 藤原純友の名前を書かしているところが的中

入試問題

前期日程 〔1〕問6

河合塾

九大入試オープン 7頁〔1〕B. 問8

〔1〕 次の文章を読み、後の問いに答えよ。(25点)

律令国家は全国を畿内・七道に地域区分し、そのうちの **ア** 道には大宰府という特殊な統治機構を設け、 **ア** 道の諸国を監督させることにした。

大宰府は現在の福岡県に置かれたが、これは大宰府が中央政府の軍事・外交面での出先として機能するのに好都合だったからである。大宰府には監督下の諸国島から調庸が集められ、その一部が都に送られるほかは、大宰府の運営経費や役人の給与、さらに海外との交易の代価として用いられた。

大宰府には長官である帥や次官である大貳・少貳以下の役人が都から派遣されたが、帥の相当位は八省の長官より高く、官庁としての規模も大きなものであった。8世紀に大宰府に赴任してきた役人の中には、帥の大伴旅人のように、後にまとめられた歌集「**イ**」に多くの歌が採られ、歌人としても有名になった者もいるが、一方で、吉備真備と玄昉とを天皇のそばから排除することを求めて反乱を起こした大宰少貳 **ウ** のような者もいた。さらに、中央の政界から追放する意味で大宰府の役人に左遷することが、奈良時代には既に行われており、平安時代に入ると、娘婿を即位させようとしたと讒言されて大宰権帥に左遷され、任地で死去した **エ** や、同様に藤原氏に疎まれて安和の宴により大宰権帥に左遷された **オ** など、多くの例がみられる。

問1. 8世紀の初めまで軍事的制圧の対象になった、南九州に住んでいた人々を、当時何と呼んでいたか、記せ。

問2. 空欄 **ア** ~ **オ** に入る語句・姓名を記せ。

問3. 下線部(a)の律令国家における公出挙について、60字以内で説明せよ。

問4. 8世紀半ば、孝謙大上天皇は、藤原仲麻呂(惠美押勝)の乱の後、対立していた淳仁天皇が廃されたため、称徳天皇として皇位についた。このように、退位した天皇が再び皇位につくことを何と称するか、記せ。

問5. 8世紀の日本は、新羅や渤海に使節の派遣を行ったが、両国との関係は大きく異なっていた。8世紀における日本と新羅・渤海両国との国交の違いについて、90字以内で説明せよ。

問6. 下線部(b)の政庁跡を発掘したところ、現在の地表面の下に10世紀の焼土層が見つかった。これは大宰府が兵乱に巻き込まれて政庁が焼け落ちたことを示している。この兵乱を起こした人物の姓名を記せ。

〔1〕 次のA・Bの文章を読み、後の問いに答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)(25点)

B. 遣唐使の終了後も、日本には多くの大陸由来の物品が流入し続けた。唐や新羅の商船が博多などに来航して様々な商品をもたらしていたからである。貴族たちは、上位者への献上品などに使う奢侈品として、また自身の政治的・文化的優位を示す威信財として、「唐物」とよばれる舶来品を熱心に求めた。一方、朝廷は「唐物」を優先的に入手するため、9世紀後半には、「唐物使」とよばれる使者を大宰府へ派遣するようになった。来日する外国商船との取引は、正式な国家間の使節によらない私貿易の形をとるが、朝廷が貿易を自らの管理下に置こうとした結果、この時期の貿易は、大宰府を介して行われる半ば公的な貿易としての側面をもっていた。

貴族らによる「唐物」の入手方法は、10世紀初めには成立していたとされる最古の物語である「**イ**」からもうかがうことができる。この物語のなかで、かぐや姫に求婚した阿倍御主人は、「唐土」にあるという「火鼠の皮衣」を姫から所望され、博多に来航した「唐の商人」に買付けを依頼している。こうして、博多で行われる外国船との交易は、「唐物」を入手しようとする朝廷と貴族とのせめぎ合いのなかで、さらに発展をとげていくこととなった。摂関政治期には、藤原道長や藤原実資など有力な貴族は、それぞれに「唐物」を確保する術を探して多彩な品物を入手した。

12世紀前半、平忠盛は肥前国神埼荘の荘官として日宋貿易に介入し、有明海に面した神埼荘に宋船が来航したとして大宰府官人を排除して宋船との取引を行った。忠盛は、入手した「唐物」を鳥羽上皇に献上して上皇の御近となり、その子の清盛は、大宰大貳となって日宋貿易の利権を享受した。さらに清盛は摂津国の大輪田泊を改修して、宋船を引き入れ大輪田泊で宋船と交易できる態勢を整えた。これは、朝廷が大宰府を通じて管理していた貿易を平氏政権が代わって管理するようになったことを意味している。

問8. 下線部(f)について、大宰府政庁は、10世紀前半に瀬戸内海の高麗を率いた元国司の起こした戦乱により焼亡したが、その後、貿易の管理などのためにさらに規模を拡大して再建された。大宰府政庁を焼いたこの元国司の姓名を記せ。